

沢渡の歴史

沢渡地区では、地元の方から沢渡の歴史についてもお話をいただき、現地に出向いてこそその見聞もありました。



昭和 20 年、東京から疎開児童がたくさん来て、みんな食欲旺盛の頃。まだ疎開が続くだろうと思って山を開墾しようとした。整地するために燃やして耕そうとしたとき、大風が吹いて山に燃え移り、そして山火事が町に燃え移って全てを焼き尽くしました。一件残らず。樹木も家屋も。街の蔵も全部。そうでなくても、その当時は、生活が貧しくて本当に大変でした。だから東日本大震災も人ごととは思えません。火で全部やられたか、津波かの違いだけです。そんな火事の中、ある樫の木は一本だけ燃えませんでした。歴史の証人として残り、現在もこの先に立っています。

東日本大震災時、沢渡地区の温泉は全部出なくなりました。過去にも何度か大きな地震がありましたが、そうすると岩がずれ、温泉が出なくなるんです。ただ、また一ヶ月もすると湧いて出てきます。

沢渡温泉は、全国でも 5 本の指に入ると言われるくらい泉質が良く、湯治場として有名です。四万温泉も良いですが、一人でのんびりしたいときには、沢渡温泉をお勧めします。



地元子ども達が作家さんとワークショップで作った土蔵作品。土でできていて、いずれ土に返る。中には花の種が。



中之条町で見られるバス停。ビエンナーレで参加した彫刻家が移り住んで作っている。今は町の嘱託職員になり、仕事としてバス停を作っている。

天蚕資料館「登坂工房」

天然の養蚕を復活させ、中之条町から発信しようと、自宅に資料館を作って、蚕業の保護に努めている、登坂工房を訪ねました。

『下賜楓 この楓は平成 18 年 4 月皇居内紅葉山の御用蚕所に於いて天蚕の飼育指導を行った際、記念として特別に宮内庁より賜った楓でございます』沢渡地区で天蚕を手がける登坂昭夫さんが自ら自宅に建てた渡良瀬川のトラ石でできた記念碑が目を引く。クヌギの木で成長する天蚕の飼育を始め、農家をしながら 40 年間の研究を重ね、2008 年自宅の庭に資料館を造り、天皇・皇后両陛下の視察訪問を受け入れました。



天蚕は、ヤマユガの幼虫で、自然の中のクヌギの木で成長します。数万粒の天蚕の卵の中から半数が繭に育ち、天蚕から取れる絹はダイヤモンドと言われるほど珍重されています。資料館には光沢のあるエメラルドグリーンの「天糸」やその着物、小物を展示しています。

登坂さんから、毎年 6 月初めから約 3 ヶ月間、小さな幼虫がクヌギを食べて蚕に育つまでの様子や繭から天蚕糸を紡ぐ工程の様子など、事細かく説明を受けました。苦勞して守ってきた伝統文化を、娘さんが継いでくれると嬉しそうに話してくださった笑顔が印象的でした。



登坂昭夫さん

問合せ先 天蚕館・登坂工房
群馬県吾妻郡中之条町山田 3053
電話：0279-66-2344 料金：300 円
営業 9:30 ~ 16:00 ※電話にて予約が必要です。



貴重な繭を丁寧に糸にしていく作業はすべて手作業で行っています。